

初めての脱毛サロンで美女に おちんちん見られた体験談

初めての脱毛サロンを訪れた日のことは、今でも鮮明に覚えている。

今までネットの体験談やAVとかで見てシコっていた脱毛サロン。

現代の日本に、性風俗ではなく、健全な目的で美女におちんちんを見てもらって触ってもらえる。そんな夢のような世界があるなんて。そして今からそこに行けるなんて。

いざ、夢の国へ！

入口のドアが開いた瞬間、病院みたいな清潔感がある空気がふわりと顔に当たり、同時に胸の奥が激しく高鳴り始めた。待合室は柔らかな間接照明で照らされ、ほんのり甘いアロマのような香りが漂っている。受付のスタッフさんに「本日初回の方ですね。カウンセリングからご案内します」と笑顔で声をかけられ、小さく頷くと、手のひらにじわりと汗がにじんできた。

カウンセリングルームに通され、座面のやわらかい椅子に腰を下ろす。スタッフさんがノートを開きながら「今日はVIO脱毛をご希望ですね？」「肌質や過去の脱毛経験はありますか？」と一つひとつ丁寧

に聞いてくる。こちらが小声で答えるたびに「はい、わかりました」「それならこのコースがおすすめですよ」と優しく応じてくれる。説明を聞きながらも、頭の中では「もうすぐ……見てもらえる……」という考えがぐるぐる回っていて、言葉がうまく出なかった。それでもスタッフさんの穏やかな笑顔に触れ、少しずつ「大丈夫かもしれない」という気持ちが芽生え始めていた。

カウンセリングが終わり、個室へ案内される。廊下を歩きながら「緊張してますか？」と声をかけられ、「はい……」と素直に答えたら、「大丈夫です、そこまで痛くないんですよ～」と言われ（痛い痛くないじゃなくて見られることへの興奮なんだけ

どな……)と思ったけど黙っていた。ドアが閉まった瞬間、外の世界と完全に隔てられた閉塞感と、どこか甘い期待が混じり合った。室内にはベッドと、折りたたまれた薄い下着が置いてあった。スタッフさんが「こちら、紙パンツに着替えたらベッドに横になってお待ちください」と説明してくれる。一人になった個室で、服を脱ぎ、その紙パンツを腰に巻く。おちんちんの形がうっすらと浮き出てしまう。ベッドに横になり、天井を見上げると、心臓の音が自分の耳にまで聞こえてくるようだった。

やがてドアが静かに開き、スタッフさんが入ってきた。「お待たせしました。それでは始めますね」と明るい声。まずは脚から。

ジェルを塗る手つきは丁寧で、「少し冷たいですよ」「ここから当てていきますね。ヒリッとするかもしれませんが、すぐに落ち着きますから」と一つひとつの動作を実況するように説明してくれる。レーザーの機械が低い音を立て、肌に熱が走ると「大丈夫ですか？」とすぐさま確認の声が飛んでくる。「はい……大丈夫です」と答えると、「よかったです。ゆっくり進めていきますね」と微笑む。胸のあたりを施術する頃には、最初の激しい緊張はかなりほぐれ、スタッフさんの優しい声と手つきに少しずつ身を委ねられるようになっていた。

そして、いよいよVIOの番が来た。スタッフさんが一度手を止め、やわらかい声でこう告げる。

「では、下のパンツを脱がしますね。腰を少し浮かせていただけますか？」